

令和2年度 農林水産業競争力アップ技術開発事業

新規研究テーマを募集!!

生産者の所得向上や地域の活性化につながる新品種・新技術の開発を加速させるため「農林水産業競争力アップ技術開発事業」を平成24年度に創設し、これまで104件の研究テーマに取り組み、現在31件を実施中です。

本事業では、農林水産関係者をはじめ、県民の皆様の声をしっかりと反映した研究に取り組むため、令和2年度から試験研究機関が取組む新規研究テーマを募集します。また、現在実施している継続研究をブラッシュアップするためのご意見も併せて募集します。

●募集期間 令和元年8月1日(木)～令和元年9月6日(金)

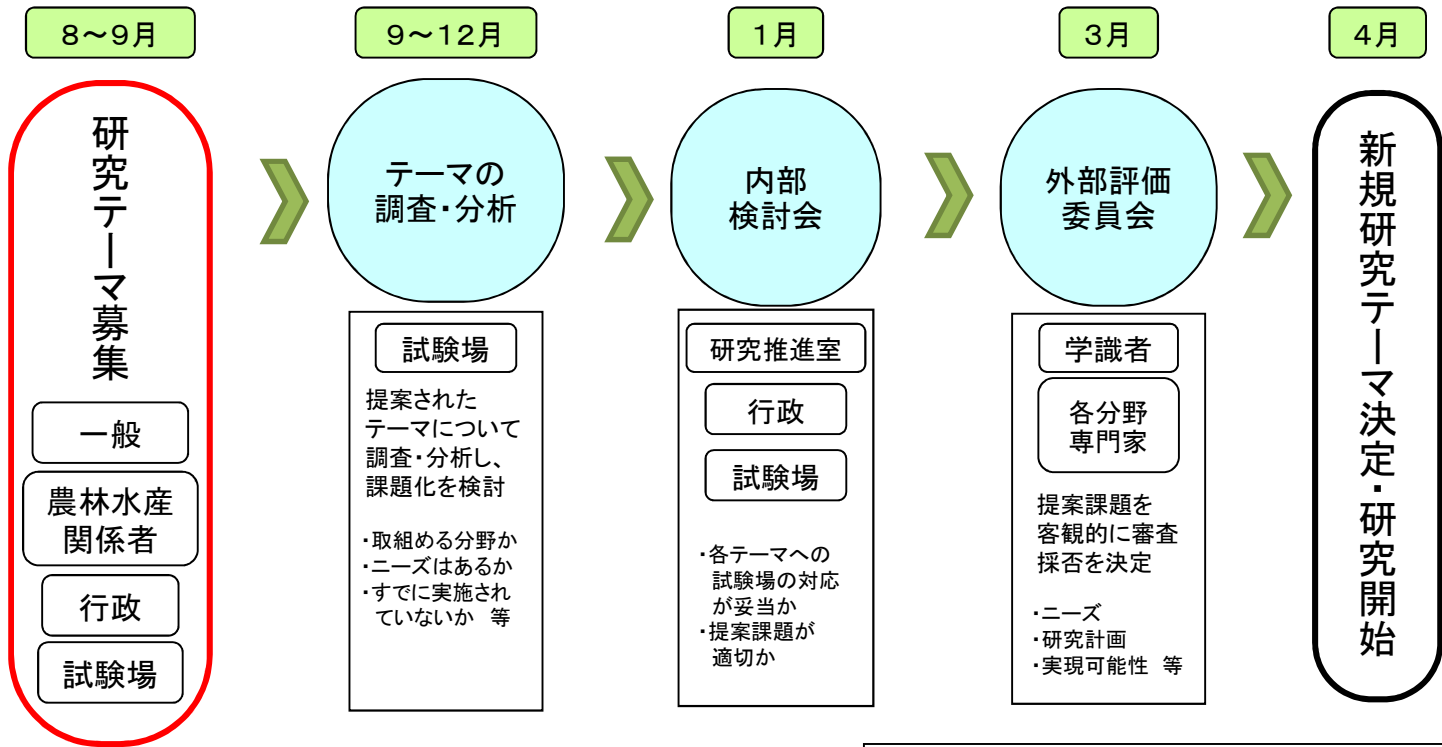
●募集内容

- ・新規研究テーマ…実施中の研究と重複しない新たな研究テーマ
- ・実施中の研究に対するご意見…研究内容の修正や成果の普及等

過去3カ年の募集結果

平成29年度研究テーマ	136件(野菜・花き・水稻42 果樹52 畜産11 林業17 水産14)
平成30年度研究テーマ	179件(野菜・花き・水稻35 果樹50 畜産22 林業57 水産15)
平成31年度研究テーマ	158件(野菜・花き・水稻45 果樹45 畜産20 林業40 水産8)

【新規研究テーマ決定フロー】



問い合わせ先
農林水産総務課 研究推進室
担当 西森、高橋 TEL 073-441-2995

募集内容

募集内容

1) 令和2年度新規研究テーマ

県農林水産業の発展に役立つ以下のような分野について、具体的な研究テーマを募集します

- ① 新品種の開発
- ② 高品質生産技術の開発
- ③ 機能性を備えた生産・加工品の開発
- ④ 低コスト・省力化技術の開発
- ⑤ ICT・ロボットを活用した革新的技術の開発
- ⑥ 鮮度保持などの流通加工技術の開発
- ⑦ 病虫獣害防除技術の開発
- ⑧ 温暖化対応技術の開発
- ⑨ その他

2) 実施中の研究について、内容の修正や成果普及の迅速化等のご意見

※詳しい研究内容は県ホームページの「農林水産総務課研究推進室」に掲載しています

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/index.html>

募集対象者

- ・農林水産関係者（市町村、農協、森林組合、漁協、生産者 他）
- ・一般（本県農林水産業の発展に関心のある県内外の団体または個人）

募集期間

令和元年8月1日（木）～ 令和元年9月6日（金）（研究推進室必着）

応募方法

応募様式に必要事項を記入のうえご応募願います
（メール、FAX、郵送）

※応募様式は県ホームページの「農林水産総務課研究推進室」に掲載しています

提出先

和歌山県農林水産部農林水産総務課研究推進室
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL：073-441-2995
FAX：073-433-3024
メール：e0701003@pref.wakayama.lg.jp

その他

- ・研究期間は概ね3年以内です
- ・新規研究テーマは和歌山県議会において令和2年度当初予算承認後に決定します

【新規研究テーマ提案 様式】

記載例

提出日	令和1年8月25日	
ふりがな	わかやま けんたろう	
氏名	和歌山 県太郎 ※団体・法人等に所属する場合は、役職名も記載して下さい。	
職業(○印記入)	(○)農業関係 ()畜産関係 ()林業関係 ()水産関係 ()その他	
団体・法人等の名称 (個人の場合は空欄)	学校法人 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="radio"/> 学部 ※所属する部・課名等を記載して下さい。	
住所・電話番号	和歌山市大松原通00-99 (TEL: 073-456-xxxx)	
研究項目／研究分野 (○印記入) (複数記入可)	<input type="checkbox"/> 新品種の開発 <input type="checkbox"/> 高品質生産技術の開発 <input type="checkbox"/> 機能性を備えた生産・加工品の開発 <input type="checkbox"/> 低コスト・省力化技術の開発 <input type="checkbox"/> ICT等を活用した革新的技術の開発 <input type="checkbox"/> 鮮度保持が可能な流通加工技術の開発 <input type="checkbox"/> 病虫害防除技術の開発 <input type="radio"/> 温暖化対応技術の開発 <input type="checkbox"/> その他[]	<input type="checkbox"/> 野菜・花き・水稻 <input type="radio"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 畜産 <input type="checkbox"/> 林業 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> その他[]
提案テーマについて	テーマ名	※要望する研究内容がイメージできるタイトルを簡潔に記載して下さい。 【例】みかんの果皮障害対策技術の開発
	提案の背景	※現場で解決が求められている問題点やその研究を行う必要性の背景・目的・関連する県の計画について記載してください。 【例】近年、温暖化に伴い、秋期に降水量が増加したり、気温が高めに推移する傾向があり、浮皮など果皮障害が多発し、みかんの生産・出荷量の減少や品質管理に悪影響を与えている。そこで、温暖化に対応した果皮障害対策技術の開発が求められており、このことは、和歌山県長期総合計画に示されている気候変動に適応した栽培技術の開発にも合致している。
	研究内容	※本研究で行おうとしている検討内容を項目別に記載し、その内容について簡潔に記載してください。 【例】・植物ホルモン剤を活用した果皮障害対策技術の開発 処理濃度と処理時期の違いによる浮皮軽減効果及び着色遅延の関係を解明 ・みかん果皮障害対策技術マニュアルの作成 開発された技術を速やかに生産者へ普及するため、処理方法(濃度や時期など)や薬剤効果と副作用が簡易に判断できるマニュアルを作成する。
	期待される効果	※本研究の成果が普及することで、農林水産業にどのように貢献できるのか記載してください。 【例】果皮障害の発生を軽減することにより、みかんの安定生産と高品質管理が可能となり、収益性の向上が期待できる。
	その他	上記以外のことについて、提案テーマに関するご意見があればご記載下さい。 【例: 共同研究を希望する場合】 弊学では、植物ホルモン剤に関する研究シーズを有しており、この要望課題については、○●試験場との共同研究を希望する。 (第○回 ■■学会大会発表、〈発表タイトル〉、〈発表者氏名〉)、(□□学会誌No.99〈論文タイトル〉、〈著者名〉)




- 【共同研究について】
- ① 共同研究を希望される場合は、「その他」の欄に、希望の有無、保有する研究シーズ、学会発表等の実績など記載例を参考に記載下さい。
 - ② 研究費用については、双方協議の上、場合により県がその一部を負担することも可能です。
 - ③ 共同研究により開発した技術の権利等については、別途協議の上、契約書にて定めるものとします。
- 【その他留意事項】
- ④ 収集した個人情報には目的以外には使用しません。
 - ⑤ 開発した技術の権利は和歌山県に帰属します。
ただし、共同研究の場合は、上記のとおり、別途権利等を定めるものとします。
 - ⑥ 提案いただいたテーマの内、採択されたテーマについては、研究推進室のホームページで公表します。
(翌年4月に公表予定)

農林水産関係試験研究機関で実施している研究課題一覧

農業試験場

研究課題（実施年度）	研究概要
業務用野菜の安定生産技術開発 (H29～R1) 	安定的な収穫が可能な多収・良食味品種の選定を目標とした業務用野菜の低コスト安定多収生産技術を開発する。 ・キャベツ: 低コスト安定多収生産技術の開発 ・ハクサイ: 大玉生産における生理障害抑制技術の開発 ・ナバナ: 多収・良食味品種の選定と栽培技術の開発
施設栽培コマツナの重要害虫コナガの緊急防除対策 (H29～R1) 	施設栽培のコマツナにおけるコナガの防除対策技術を確立する。 ・被害実態と有効農薬の探索 ・性フェロモン剤や物理的手法を利用した総合的な防除技術の確立
キヌサヤエンドウのハナアザミウマ防除対策 (H30～R2) 	サヤエンドウのガク枯れや白ぶくれ症状の原因となるハナアザミウマの効率的な防除方法を確立する。 ・薬剤防除技術の確立 ・マルチなど資材を活用した防除技術の開発
砂地圃場における高品質ショウガ生産技術の開発 (H31～R3) 	県内の水田転換畑における生産性の高い種ショウガ栽培技術を確立する。 ・栽培管理、病害虫等防除、効率的施肥技術等の確立 ・栽培管理マニュアルの作成
冬季スプレーギクをボリュームアップする生長制御技術の開発 (H31～R3) 	冬季作のスプレーギクにおける切り花ボリュームアップを目指した高品質生産技術を開発する。 ・光照射による切り花品質向上技術の開発 ・新規電照法に基づく栽培技術体系の最適化

暖地園芸センター

気候変動に適応したスターチスの安定生産技術開発 (H29～R1) 	・夏季に高温が続くことで初期生育の抑制や障害が発生するため、生育初期における高温対策技術を確立する。 ・冬季は無加温または2℃の加温といった低温管理が定着し、気候に左右されやすく、計画的な出荷が困難なため、効率・効果的な温度管理技術を確立する。
トルコギキョウの安定育苗技術の開発 (H29～R1) 	トルコギキョウは夏季に育苗を開始するが、気温が高いとロゼット化が発生し、作柄が不安定となるため、本県の気象条件に対応した育苗技術を確立する。 ・夜冷育苗における夜冷温度と処理期間の改善 ・苗低温処理における処理中の抽苔回避技術の開発
無加温ハウスで栽培可能な新規切り花の省力据置栽培技術と鮮度保持技術の確立（農業試験場と共同研究） (H31～R3) 	新たな切り花品目における省力据置栽培技術と鮮度保持技術を確立する。 ・シンジー、アルメリアの省力据置栽培技術の確立 ・アルメリアの鮮度保持技術の確立




果樹試験場

ドローンを活用した傾斜地かんきつ栽培の省力化技術開発 (H29～R1)		傾斜地カンキツ栽培園地において、ドローンによる撮影画像の解析法の確立や農薬散布の利用条件の解明等により、管理作業の軽労化を図る ・空撮画像を利用したかんきつ園地栽培管理技術 ・傾斜園地での農薬散布用ドローン活用による軽労化技術
収穫期に温州みかんを加害するアザミウマ類の緊急防除対策 (H29～R1)		加害するアザミウマの特定とその発生生態を解明し、有効な防除対策を確立する ・かんきつ園地におけるアザミウマ類の発生メカニズムの解明 ・高精度な予測に基づく効率的な防除法の確立
県オリジナルウンシュウミカン「きゅうき」の高品質安定生産技術の開発 (H30～R2)		高品質ミカン「きゅうき」の普及に向け、品種特性にあった栽培技術を確立する。 ・「きゅうき」の普及に向けた品質向上のための栽培条件の解明 ・結実管理と肥培管理による安定生産技術の確立
良食味で年内収穫可能なカンキツ「津之望」の少核化安定生産と品質保持に関する技術開発 (H30～R2)		「津之望」は食味が良く注目されているが、核が多いという欠点があるのでその対策技術を確立する。 ・簡易なネット被覆による少核化技術の確立 ・出荷期間の延長を可能にする簡易貯蔵法の開発
捕獲困難な個体を生み出さない効率的なシカ捕獲技術の開発（林業試験場と共同研究） (H31～R3)		捕獲困難なシカを生み出さない新たな囲いワナの開発と効率的な捕獲地点を解明する。 ・GPS首輪を用いたシカの行動調査 ・新規囲いワナの開発と捕獲効果の検証



かき・もも研究所

もも寄生シロカイガラムシ類の効率的防除法の開発 (H29～R1)		シロカイガラムシ類は、枝の枯死や果実の品質低下を招く重要害虫であるが、防除適期の判定が難しいため、有効な防除対策技術を開発する。 ・シロカイガラムシ類の防除適期を高精度に予測できる発生予察技術の開発 ・薬剤感受性が高い効果的な薬剤防除体系の構築
新品種「さくひめ」による県内早生桃のブランド向上 (H30～R2)		6月下旬収穫で、核割れが少なく普及が期待される「さくひめ」(農研機構育成)の品種特性にあった栽培技術を確立する。 ・大玉果高品質生産技術の開発 ・凍害耐性の解明と凍害対策技術の開発
県オリジナルカキ新品種「紀州てまり」の産地形成に関する技術開発 (H31～R3)		新品種「紀州てまり」における”へたすき果”の発生対策及び接ぎ木更新後における管理作業の省力化を図る技術を開発する。 ・「紀州てまり」のてたすき果対策技術の開発 ・接ぎ木更新による省力樹形の開発
モモせん孔細菌病に対する防除技術の開発 (H31～R3)		ももの難防除病害である「モモせん孔細菌病」に対する防除技術を開発する。 ・品種別の発生実態把握と多発要因の検討 ・伝染源除去技術の開発 ・生育期の薬剤防除技術の開発


うめ研究所

うめ「古城」収量倍増技術の開発 (H29～R1)		着果安定のため近年の気候条件に合った授粉品種の選定と大玉果生産に向けた摘果技術を開発する。 ・うめ早生品種「古城」の着果安定技術の開発 ・ヤニ果の少ない大玉果生産技術の開発
うめ「露茜」の安定生産・供給のための苗木管理法および防除指針の開発 (H29～R1)		従来のウメ品種と異なる「露茜」の特性に合った苗木管理法と防除指針を開発する。 ・幼木期の施肥・枝梢管理、大苗育苗技術の開発 ・「露茜」に特有の病害虫の種類や発生消長の解明
ウメ「南高」の低樹高化技術(カットバック)確立による青梅生産性の向上 (H30～R2)		高樹高化したウメを一定の高さでカットし、低樹高にして省力化を図るとともに、低樹高にしても収量を低下させない技術を確立する。 ・カットバックと摘心処理による低樹高化技術の確立

畜産試験場

<p>肉用牛ゲノミック評価と受精卵移植を活用した熊野牛の高能力後継牛作出効率化 (H30～R2)</p>		<p>子牛の段階から遺伝子情報によりその能力を推定するゲノミック評価を活用しより早期に県内牛を高能力化する技術を開発する。 ・「熊野牛」におけるゲノミック評価の検証 ・フィールドでの受精卵凍結保存技術の確立</p>
<p>和歌山県産霜降り豚肉・イノブタ肉の肉質安定化技術の開発 (H31～R3)</p>		<p>和歌山県産豚肉・イノブタ肉の肉質安定と脂肪質向上を目指した霜降り豚肉生産技術を開発する。 ・アミノ酸のバラツキを抑えた肉質安定化技術の開発 ・県産副産物飼料(エコフィード)の機能性評価</p>

養鶏研究所

<p>絶滅危惧日本鶏「龍神地鶏」を基にした新たな「紀州龍神地鶏」の開発 (H30～R2)</p>		<p>龍神地鶏と生産性の高い商用品種との交配により、龍神地鶏の血を引く新たな商用地鶏ブランドを創出する。 ・交配による新たな卵・肉用の商用地鶏種開発 ・希少な龍神地鶏の継続的な保存への寄与</p>
------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

林業試験場

<p>地域の稼ぐ力を生む”イタダリの増殖と機能性成分活用に係る研究開発 (H29～R1)</p>		<p>本県の郷土山菜であるイタダリの優良系統選抜や機能性成分の分析、地域生産者等と連携した商品の開発を行う。 ・イタドリ優良系統選抜と効率的育苗技術の開発 ・イタダリの機能性成分の分析と有効活用技術の開発</p>
<p>県産未利用広葉樹(シイ)の建築資材等への利用拡大のための技術開発 (H30～R2)</p>		<p>主要広葉樹のシイは材質が堅くフローリング材としてのニーズがあり、これを実用化するための乾燥技術を確立する。 ・「割れ」等が発生しないシイの乾燥技術の確立 ・曲がり、耐朽性など加工に向けた材質の解明</p>
<p>サカキを加害する新種ヨコバイの防除体系の確立 (H30～R2)</p>		<p>近年サカキにヨコバイの吸汁により無数の白点が発生する被害が多発しており、この対策技術を確立する。 ・薬剤防除効果の検証 ・防除適期の解明と防除指針の策定</p>
<p>新種クマノザクラの保全と活用に向けた大量増殖及び更新技術の開発 (H31～R3)</p>		<p>新種「クマノザクラ」の保全と活用を目指したクローン増殖技術の確立とサクラ類植栽地における更新技術を開発する。 ・挿し木等による効率的なクローン増殖技術の確立 ・サクラ植栽地における連作障害対策技術の開発</p>

水産試験場

<p>シロアマダイの種苗生産技術の開発 (H30～R2)</p>		<p>高級魚であるシロアマダイの種苗放流による漁獲量の増大を図るため、種苗生産技術を開発する。 ・ふ化後の給餌方法(餌の種類等)の確立 ・夏季の飼育に適した水温条件の解明</p>
<p>天然ヒジキ増産に向けたヒジキ移植技術の開発～人工種苗を用いた早期移植の試み～ (H30～R2)</p>		<p>これまでに開発した人工種苗ヒジキを安定して磯に移植・増殖するための技術を開発する。 ・雑海草の繁茂を防ぐ早期移植技術の開発 ・ヒジキの生育に好適な環境の解明</p>
<p>餌料仔魚を給餌しないスマ種苗生産技術の開発 (H31～R3)</p>		<p>種苗生産時における初期餌料の栄養強化方法を見直し、餌料仔魚を与えないスマ種苗生産技術を開発する。 ・餌料仔魚を給餌しないスマの種苗生産試験 ・健苗性評価試験</p>
<p>抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発 ～早期実用化への試み～ (H31～R3)</p>		<p>早期の実用化に向けて、アユ冷水病における防除対策技術とワクチンを開発する。 ・ワクチン効果試験 ・除菌技術の検討と野外における除菌効果の検証</p>